

D-3 山口県学童の体位と家庭生活に関する調査研究(第3報)

山口大教育 森田 倭文
山口県立徳佐高 ○水田 恵子

1. 昭和40年の調査研究においては山口県学童の体位は、入学当初は生後6年間の食生活及び家庭の育児態度の影響を受け、調査27校の児童の体位と家庭の育児努力の相関が高く、地域の差もかなり大きかった。その後4年を経過した昭和44年の時点においてどのような変化がみられるか、又特に今回は学童の体力の点を究明したいと考えて本調査を試みた。

2. 第1回の調査校27校の中から上位校2、中位校2、下位校4を抽出し、育児資料調査として昭和44年4月1年入学児童の家庭(395)に質問紙法により食生活面5領域12問、住生活関係3領域4問計16問について解答を求めた。又別に、これらの児童(395名)に1)シヤトルラン、2)垂直とび、3)後幅とび、4)前後開脚、5)後そらしの5種目について体力の測定を行なった。

3. 4年前にくらべ出生時の体位はあまり上昇していないが、1年入学時は低位校に大きな伸びがみられ学校間格差縮小の傾向が目立った。又育児条件と体位の相関係数は、やや低くなった。体力測定の結果から学童をHigh class と Low class に分け比較検討の結果、体位と体力はほぼ比例していてしかも出生時体位が関係していることがわかった。即ち体位向上のために、のぞましい要因はすべて体力においてものぞまれ、家庭における育児努力の必要性が明らかになった。